

# 探究型学習や言語活動などを通して、地域の未来を切り拓く人材を育てる

山形県教育委員会 教育長 **廣瀬 渉**

山形県では、いのち・学び・地域をキーワードにした「目指す人間像」を全県で共有し、探究型学習や英語教育、新聞を活用した教育活動などの施策を打ち出し、次代を生き抜く力を育成しています。廣瀬渉教育長がそのねらいを語ります。

ひろせ・わたる 1977年、山形県庁に入庁。山形県商工観光部長、企画振興部長、企業局企業管理者などを歴任後、2016年度から現職。

## いのちをつなぎ、学び続け、地域とつながる人の育成を

山形県教育委員会では、2015年度、10年間の教育行政の方向性を定めた「第6次山形県教育振興計画」を策定しました。基本目標に「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を掲げ、それを具現化した姿として、3つの要素から成る「目指す人間像」を設定しました(図)。

1つめは「『いのち』をつなぐ人」です。人権や道徳に関する教育、体験学習や異学年交流などを通して、自己の生命を尊重し、他者の存在や多様性を受け入れられる子どもの育

成を目指します。2つめは「学び続ける人」です。確かな学力を土台として、探究心を持って学び続ける力を育成します。3つめは「地域とつながる人」です。地域コミュニティの一員として地域にかかわり、郷土に愛着と誇りを持つ人を育てます。それら3つを実現していく観点から、様々な教育施策を展開しています。

## 合教科型・総合型の学力調査を探究型学習の成果指標として開発

本県の特徴であり、実践を蓄積しているのが、「学び続ける人」の育成に深くかかわる探究型学習です。小・中・高一貫で取り組んでおり、身に

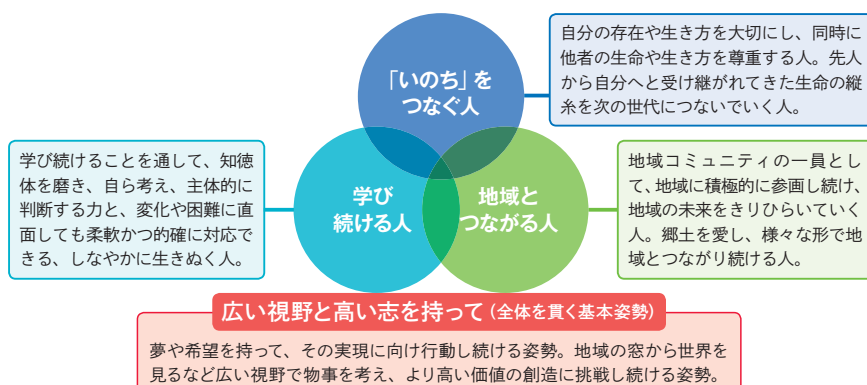
つけた知識を適切な場面で活用して問題解決を図る力を育成しています。

探究型学習を導入したきっかけは、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果から、言語活動や探究的な学習のさらなる充実を図る必要があったことです。ただ、それだけではありません。探究型学習によって、先行きが不透明な社会を生き抜くために、自ら進んで学び、知識を更新する力を伸ばしてほしいからです。さらに、教員の資質・能力の向上にもつなげていく必要があります。先生方には、子どもの心に火をつけるとともに、主体的・対話的で深い学びをデザインする力を磨いてほしいと考えています。

実践と並行して、学びの成果の測定も大切にしてきました。指標の1つとする「全国学力・学習状況調査」のB問題では、正答率が全国平均を上回る問題も多く、一定の成果が出ています。

また、2016年度から「山形県学力等調査」として、県独自の合教科型・総合型の調査問題を作成し、小学5年生と中学2年生を対象に実施しています。本調査では、教科の枠にとら

図 山形県が掲げる「目指す人間像」



\*山形県教育委員会提供資料を基に編集部で作成。



われずに知識・技能を活用できる思考力・判断力・表現力等をより具体的に捉えるため、「広げながら考える」「深めながら考える」「組み立てながら考える」の3つの「思考の場面」を基に評価します。その結果から、子どもたちの思考力・判断力・表現力等が着実に向上していることが分かっています。もちろん、結果に一喜一憂せず、小学校段階からしっかりと学びを積み上げることが最も大切であることは言うまでもありません。

英語教育にも、力を入れています。2015年度から3年間、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」のモデル地域に鶴岡地区が指定され、小・中・高が連携し、郷土のよさを世界に発信できる確かな英語力の育成を図ってきました。現在はその発展事業として、県内の6中学校区で小・中・高の教員による合同研修や相互授業参観、12年間を貫く系統的なCAN

-DOリストの作成などを進め、英語運用能力の向上に取り組んでいます。2018年度は、詳細な英語力の分析による授業改善のために6校の中学2年生が「GTEC」\*1を受検しました。

### 業務改善事例を共有し、 教員が力を発揮できる環境を

2020年度から「第6次山形県教育振興計画」が後半期に入ることを見越して、現在、次の学びのテーマを議論しています。有識者による検討会では、これまで続けてきた不易の学びを大切にしつつ、グローバル化やICT、AIなどへの対応を強化する方向で進めています。さらに、データサイエンスやEdTech\*2といった分野も視野に入れ、新たなツールを取り入れながら探究型学習を進化させることも重要視しています。

一方、不易の学びの一環として、2017年度から小・中学校において、

新聞を活用した学習を始めました。時代を問わず学びの基本となる読解力を高めようと、各校の実践を県内で共有しています。記事の要約、関心を持ったテーマに関する議論やスピーチ、複数紙の比較読みなどが、授業や家庭学習で展開されています。

そうした様々な新しい学びを充実させるためには、教員が力量を発揮できる環境を整えることも大切です。働き方改革の一環として、2017年度、500項目以上にわたる教員の業務を分析し、対応策を議論しました。その結果を基に各校が改善を進め、現時点で800件近くの実践事例のプロセスと結果を共有しています。

子どもの人生を豊かにするために教育の果たす役割は大きくなる一方です。これからもグローバルに活躍する力を備えつつ、ふるさと山形に心を寄せて社会に貢献できる人材の育成に努めていきます。

## 山形県 プロフィール



◎東北地方の日本海側に位置し、蔵王山や月山、鳥海山など日本百名山に数えられる山々に囲まれ、米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を流れる最上川などの美しい自然に恵まれる。南から置賜、村山、最上、庄内の4地域に大きく区分される。

人口 約109万人 面積 約9,323km<sup>2</sup> 公立学校数 小学校251校、中学校100校、義務教育学校1校、高校47校、特別支援学校18校 児童・生徒数 約10万人 電話 023-630-2211 URL <https://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/>

\*1 ベネッセが提供するスコア型英語4技能検定。 \*2 Education（教育）とTechnology（テクノロジー）を組み合わせた造語。